

よぬだ ところどころ



第四十五号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

則光 田福寺 デンプクジ

地元ではタフクジと読む

上写真は平成三十一年春分の供養祭時に撮影したもの

左地図は、土屋氏による明治時代の則光見取り図の一部

左位牌写真は、田福寺に安置された旗本滝川氏のもの

土屋氏の説明による田福寺の縁起

則光見聞録による

伝え聞くところによれば



「川原前の東の方 山の山麓の一段と高いところに、正人屋敷と言うところがあり、其の正人と云う人が信仰がありて、観世音菩薩を則

光村川原前に開立建築奉り・・・」

左図は、土屋氏が明治末期の様子を見取り図として作成したものである。図中央にある川原前という小地名と大砂留の間に「正人」と記載された場所があり、ここが観音堂の初期の位置とされる。

注 正人と記載されるが「上人」という誤記載ではないかと思われる。

「その後、寛文七年ごろ、滝川殿主(ママ)主殿の誤記か、主殿は明治維新時最後の領主である)守様 先祖帰貞青雪院殿万閣透居士(ママ)と云うご位牌を賜り 普門安厄(ママ)と云う僧を



滝川様より条献料(ママ)として銀一兩宛下付ありたり その後年号不明字若神子に移寺され 大正三年再び元の所に近い川原前に耕地整理工事を終了時移転改築 大正七年一月元旦 新四国八十八か所霊場第(不明四か)番の所に信者相謀り・・・」

注 則光見聞録の著者は、この神田家から土屋家へ養子縁組をした人である。土屋氏の見聞録地図の中に「代官所」とあるのはそれである。また、郷蔵は深渡川につながる河川のそばにあり、ここから年貢米を積みだしたものと考えられる。

注 則光を支配した旗本滝川氏について 古くから織田信長の配下として活躍した「滝川一益(家紋は丸に堅木瓜)」に仕え、一益より、「滝川」の苗字を与えられた戦国の武将で、元の名字を「木全」という。色々と経緯はあるが、戦国波乱のなか、秀吉の家臣としても仕えた関係で、「忠征」は関ヶ原では西軍に属していたが、戦後に家康に召し出され(登用)、以後徳川に従属、元和二年(1616)尾張藩の家



老(知行地六千石、則光を含む)となる。寛永十二年の忠征の死後、美濃の給人領(下米田則光を含む)は長男の子「直政」に与えられ、以後旗本領となった(美濃山本滝川氏2000石の流れ)。この「直政」の子が「征盛」で、これが、寛文七年六月二十二日に死去し、戒名「二透」を授けられたものと推察できる。